

建築家 村山 雄一

内部は森の中のよう「ムーミン屋敷」

光は平面に当たる時と、曲面の時とは反射の仕方が違って来る。平面だけで構成された家に住み慣れた私たちは、この違いをなかなか実感できない。曲面に当たって乱反射する、柔らかな光に満ちた空間を体験するのはまだだからである。

建物は水平と垂直の面で構成された四角い箱であるだけではなく、角の取れた連続する線と面に覆われたものであって、いいのではないだろうか。

壁の展開や窓の形などを考える時、「部屋は直角という静的で安定した角度によって成り立つ」という概念から離れ、線と面の織り成す角度を今一度感性でとらえ直してみよう。するといろいろな性格の角度が空間の中に現れて、建物の中に動きを感じられるようになる。

空間に動きを

⑤

曲面で柔らかく温かく

るだろう。

同時に多様な面によって生じる乱反射は空間に柔らかな光を運んでくれる。「動き」と「光」

に建設中の「あけぼの子どもの森公園」内に建つ「ムーミン屋敷」である

（ムーミン童話の精神を取り入れた同公園は今年

登場人物は北欧の妖精

「トロール」であるから、ここは「精霊たちの家」ということになる。丸太

だろう。

柱が垂直に立っていない建物など、めったにあるものではない。どんなに腕のいい大工職人にと

を運して空間は活性化され、その結果、建物は温かいものとなるだろう。写真は、埼玉県飯能市

7月1日にオープン。他に集會施設「子ども劇場」、展示館「森の家」を備える。

使われた。ふたつの酒とつくりのうち、ひとつを逆さにして、抱き合わせたような姿をしている。

っても、こんな建物を金物に頼らずに組み上げていくことは、新しい事への挑戦であった。

また最近では、調合済み材料をメーカーから取り寄せて、水でこねるだけで済む仕事が多い中、この左官職人は建物に合わせて、土・砂・セメント・わらすき等の配合を研究・開発し、新しい現代の土壁を表現してくれた。



完成間近の「ムーミン屋敷」

壁の仕上げには大分県産の珪藻土(珪藻という植物性プランクトンの死がい)が海底や湖底に長年にわたって積もって出来た土を使った。屋根も土葺きで、もちろんタンポポの花が見られる

内(外)にと傾いて林立する柱に囲まれた、この屋敷の内部は森の中のような。建物の角は押し広げられ、限りなく曲面に近づき、連続する面の流れに変わった。壁は柱から離れて、外に向かって膨らみ、建物全体を覆う皮膜のような。窓は内部からの要求に従い、思い思いの大きさと形に開けられている。ポツポツとうがたれた窓から差し込む光は、木漏れ日のようにも見えてくる。この建物ほど四角い部屋、四角い窓の似合わないものはないだろう。

ムーミン屋敷はおとぎ話の中の家である。こんな家が街中にニョキニョキ建ったら、子供たちは喜ぶかもしれないが、私たち大人はどうだろうか。ともあれ、これは入場無料で皆に開放された市の公園である。大人も子供も連れ立って、建物の中の「空間の動き」を味わってほしい。

!!この項おわり

